

安保破棄ニュース

No. 545
2022. 9. 22

安保破棄・諸要求貫徹大阪実行委員会

〒五四三〇〇一四 大阪市天王寺区玉造元町一七一三
TEL 〇六一六七六一三三三三
FAX 〇六一六七六一三三三六
●Eメール anpo-osk@abeam.ocn.ne.jp
●ホームページ http://www.anpo-osk.jp

「辺野古新基地建設NO」 はゆるぎない

沖縄県知事選挙の結果を受けて

9月11日に投開票された沖縄県知事選挙において、真正面に「辺野古新基地建設反対」を掲げ「建白書」の実現をめざす玉城デニー知事が33万9767票を獲得し、自民・公明両党が推す佐喜真淳氏に6万4923票の差をつけて再選を果たしました。

この結果を見ても、岸田自公政権は「辺野古が唯一」と言い張り、選挙の翌日12日から辺野古での工事を強行していますが、前回（2018年）の知事選挙では辺野古新基地建設に対する態度を曖昧にしていた佐喜真氏は、今回は「容認」を明確に掲げており、もはや「争点は基地問題だけではなかった」などという、政府の言い逃れは許されません。

昨年10月の衆議院選挙で沖縄3区・4区で自民党候補が当選し、「選挙イヤー」と

言われる今年1月の名護市から南城市、石垣市、沖縄市と4市の首長選挙で勝利した自民党は、7月の参議院選挙では初めて辺野古新基地建設「容認」を掲げ、敗れたものの、無名の新人をして「オール沖縄」の現職・伊波洋一氏に2888票という僅差まで迫り、その勢いで今回の知事選挙では佐喜真候補にも辺野古新基地建設「容認」を掲げさせ、何としても県政奪還をと臨んできました。

参議院選挙の得票で見れば、自民・公明と補完勢力の維新・国民民主などの29万に対して「オール沖縄」勢力は20万。

しかも、初めて同日投票となる宜野湾市・本部町・大宜味村・伊是名村の4首長選挙、と24の市町村議会議員選挙（定数348）には相手陣営が「オール沖縄」の2倍もの候補者を立て、知事選との「セット戦術」で向かってきました。

そして相手陣営は「期日前投票22万票で先行逃げ切り」を狙い、あらゆる業界で企業ぐるみの締め付けを強め、期日前投票の報告を毎日求め、全市町村での大規模集会を連日行い、セルラースタジアムでは1万人の集会を行いました。

名護市においても、知事選挙告示の8月25日には名護十字路で企業動員された500人が佐喜真候補を迎え、若手企業経営者が1万2000人の集票カードを手渡しました。（参議院選挙では、自民党候補が名護市で12068票を獲得し、伊波候補を513票上回りました）

私たちはこの現状を厳しく受け止め、地方選挙の期日前投票が始まる9月4日までのとりくみが勝負のカギを握ると意思統一して選挙戦に臨みました。

今回の選挙で私たちが苦しめたのが、何といてもコロナ禍です。これまでの様な全国からの応援がほとんど望めず、那覇市の沖縄県統一連の事務所でもせいぜい数十名。名護市に至っては、組織的に現地での活動をしたのは民商の皆さんと我々安保破棄大阪実行委員会のメンバーのみという惨憺たる状況の中で厳しいたたかいが続きました。

しかし結果は、11日の午後8時に投票箱のふたが閉められた瞬間「ゼロ打ち」で玉城デニー知事の当確が発表されたのです。

この勝利を導いたのは、紛れもなく沖縄県民の「1ミリもぶれることのない基地建設反対の『民意』」です。

今年には沖縄復帰50年。基本的人権を保障した日本国憲法の下、基地のない平和な島を願って記された「建議書」が締め出されたまま、未だに米軍専用施設の7割以上が集中するがために、米軍関連の事件・事故が繰り返され、女性や子どもたちの尊厳が踏みじられ、自立した経済の発展が阻害され、ますます酷くなる軍事訓練のために危険に晒され、日本政府はコロナの感染拡大やフッ素化合物の被害に対しても日米地位協定をカベにまともな抗議すらしない。

安倍政治を継承する岸田政権は、コロナ禍の中で苦しむ沖縄の経済の落ち込みを、自らの失政の責任を棚に上げて玉城県政に転嫁し、知事選挙の中で「県政危機」と煽りました。

しかし、決して諦めることなくたたかい続けている多くの県民はこのゴマカシを見抜きました。

そしてまた、反社会的組織である統一協会と自民党の癒着と、その問題を解明しないまま安倍元首相の「国葬」を強行しようとする事が大問題となる中、その統一協会とズブズブの関係を持つ佐喜真氏を候補者として自公政権が擁立したことへの批判が高まりました。

選挙結果を受けて沖縄県統一連が発表した声明には「今度の選挙で示された、不正を許さず人間の尊厳の回復を願う沖縄の『民意』は、全国の『民意』の代弁でもあります」と記されています。

今回知事選と同日に行われた県議補選では、「オール沖縄」の上原快佐氏が当選し、引き続き玉城県政の安定運営を確保できることになりましたが、宜野湾市長選では敗れ、名護市議選では「オール沖縄」の議席を減らし、辺野古新基地建設容認の渡具知市長の与党に過半数を許してしまうなど、多くの課題を残しています。

私たち安保破棄大阪実行委員会は、今後も沖縄県民・「オール沖縄」に学びながら、私たちの地元大阪においても「平和で誇りある豊かな大阪」をめざしてたたかいます。

全国の皆さまと共にごがんばりましょう。

安保破棄大阪実行委員会が呼びかけた「沖縄県知事選挙支援活動カンパ」には、大阪府下各地の方々から望外のカンパをお寄せいただきました。心よりお礼申し上げます。

変貌する自衛隊

近畿2府4県の安保破棄実行委員会が合同で開催している、連続学習会の第7弾を今回もオンラインで、10月22日(土)の14時から開催します。

戦後日本は、軍隊を解体し、日本国憲法にも「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」と掲げられました。しかし、1950年には、日本の再軍備の流れで警察予備隊が創設され、1952年に保安隊へと再編。さらに1954年には、自衛隊の発足へとつながっていきます。

集団的自衛権の行使容認から、安保法制の制定によって自衛隊はそれまで以上にアメリカと海外で戦争する部隊へと変貌しています。

さらにいま、「敵基地攻撃能力」保有の動きがあり、先制攻撃すら可能にしようという動きがあります。

このような「自衛隊の変貌」について、石川康宏さん(日本平和委員会代表理事・神戸女学院大学名誉教授)にお話をさせていただきます。

南西諸島はじめ全国で自衛隊基地の増強が進められており、防衛費の2023年度概算要求も過去最大額が計上されています。

装備から指示系統なども含めて、いまや完全に米軍の補完部隊となってきた自衛隊。本質的な役割、現状、これからの動きなどについてしっかりと学び、多くの人にその危険性を知らせていくことが、戦争す

諸団体の取り組み、当面の予定など

- 9月
 - 28日(水) 大阪府議会開会日
- 10月
 - 19日(水) 大阪安保常任幹事会 10:00~
 - 21日(金) 大阪安保23定例宣伝行動 12:00~ 淀屋橋
 - 22日(土) 近畿安保合同連続学習会第7弾「変貌する自衛隊」
講師:石川康宏さん(14:00~オンライン)

23 宣伝行動

8月の安保破棄大阪実行委員会23定例宣伝行動を8月23日の昼12時からいつもと同じく大阪市庁舎近くの淀屋橋で行いました。今回で通算406回目の23行動となります。ビラ配布と「辺野古新基地建設工事の中止と普天間基地の無条件撤去を求める請願」署名協力を呼びかけ、プラスターなどをもってのスタンディング宣伝、弁士による訴えを行いました。沖縄では、知事選がたたかわれているまっただ中のため、現地支援行動への参加もあり、今回は7人の参加と、若干少ない人数での宣伝行動でした。通行人もいつもより少なかったですが、反応は良く、自ら手を伸ばしてビラを受け取ってくれる人や、立ち止まって署名に協力してくれる人も多くいました。

弁士は、大阪憲法会議と大阪原水協から出していただき、核兵器禁止条約締約国会議のことや核兵器廃絶に対する日本政府の後ろ向きな態度、国葬問題、沖縄の辺野古新基地建設の問題などについて訴えかけました。

次回の宣伝行動は、9月22日(木)の12時から、淀屋橋で行う予定です。



米軍訓練の移転と自衛隊基地整備計画が強行されようとしている馬毛島

る国づくりを止めるためにも必要となっています。

ぜひ、この学習会へご参加ください。

参加費は無料ですが、事前申し込みが必要で、安破棄実行委員会までメールでお申し込みください。

お申し込みの際には、お名前・連絡のつく電話番号の記載もお願いします。

申し込み受付後、ミーティングID、パスコードをお知らせします。申し込み締め切りは、10月15日(土)です。